



こんにちは
東郷まさあきです

日本共産党

ご意見・ご要望をお寄せください

野洲市比江864(589-4158)
2017年4月9日 45

**市民病院
を考える**

新病院の早期建設は 市民の切実な願いです

2月定例市議会では、一般会計予算案に計上されていた市民病院関連予算を削減する修正案（建設反対）を自民党系会派が提出し、これが可決されました。修正案の提案に際し、新病院は「国の公立病院改革プランに反する！」と主張しました。安倍内閣が強行する「公立病院改革プラン」とは一体なんなのでしょうか。考えてみました。

**野洲市議会の政風会などの主張は
地域医療を破壊する国の改革プラン**

政風会・じみんやす・野洲ねつと・創新会など自民党系会派らの新病院建設反対理由は、安倍政権が地方自治体に押し付けている「公立病院改革プラン」です。

本来、国民の命と健康を守るのが国の責任。ところが「改革プラン」なるものは、地域医療を守る公立病院の国の責任を放棄し、病院の統廃合、国の財政負担削減で地域医療の破壊を進めるものです。

「プラン」では、「経営形態の見直し（官から民）」を求めています。また、病院の廃止・縮小のために「病院の再編・ネットワーク化」には財政支援をおこないます。しかし新たな病院建設や改築には地方交付税を懲罰的に減額しています。また、病床数に応じて交付してきた地方交付税を稼働病床数に変更し減額するなど、地方公立病院を財政面で締め付けています。

つまり安倍内閣の改革プランは、本来、国が法律に基づき責任を持つべき社会保障を放棄し「公的責任から自立・自助」に変質させるものです。さらに「地方創生」の名のもと一層、地域医療を崩壊させようとしています。2月定例野洲市議会でも自民党系会派の議員は口々に、「安倍内閣の改革プランに反する」と唱え、市民病院関連予算の削減を強行しましたが、これは市民のための新病院早期建設の願いとはかけ離れています。

これまで長年に亘り野洲市の地域医療を担い、開業医との連携で市民の命と健康を守ってきたのが野洲病院です。これを継承する市民病院の建設に向け、かつてない市民の運動が高まり計画が進められてきました。ですから、安倍自民党政権に追隨して市民病院反対の態度を取る、市議会自民党系会派議員の主張では市民の命と健康は決して守れません。

**みなさんと力を合わせ
市民病院の早期建設を進めましょう**



長澤神社の開花日

2008年	3月31日
2009年	3月28日
2010年	3月27日
2011年	4月5日
2012年	4月5日
2013年	3月28日
2014年	3月29日
2015年	3月28日
2016年	3月25日
2017年	4月3日

先週号で「長澤神社の開花」をお知らせしましたが、4月3日に開花しました。去年は3月25日でしたので、9日遅い開花です。これから春本番です。政治の世界も毎日「汚れたニュース」が。桜のように綺麗になればいいですね。

病児・病後児保育が6月から実施です

子どもが、水ぼうそうやおたふくかぜなどで、保育園や学校に行けず、共働きの家庭などは、誰かが休まなければならず大変でした。「野洲市にも病児・病後児保育の実施を」と強い要望がありました。共産党市議団も議会質問や毎年の予算要望で市に実現を求めてきました。

この病児・病後児保育が今年6月から実施されることになりました。市内の小篠原の開業医で保育所が開設されます。市では保育要領や保育料など今後市民に周知していきます。